

葛生南こどもクラブ 中央こどもクラブが開所

3月3日、市内で14番目となる葛生南こどもクラブの開所式が行われ、関係者および対象児童とその保護者が集まりました。

葛生南小学校の一部をこどもクラブ用に改装し、本やテレビなどが設置されています。

また、3月10日には、建物が新しくなった中央こどもクラブで、新たな門出を祝う開所式が行われました。

中央こどもクラブは、平成5年に開設され、移転を経て、今回新たに建設されました。

式典では、3年生の代表児童6人が、市や保護者などに対して、心をこめた感謝のことはを述べたあと、児童全員で躍動感あふれる歌声を披露してくれました。

こどもクラブとは、いわゆる留守家庭の小学校1年から3年生までの児童を放課後にお預かりし、健全育成することを目的に設置されています。

遺跡発掘体験 土器の破片など次々発見



住居跡を慎重に発掘

3月17日、田沼町の傾城塚遺跡で、発掘体験と見学会が行われました。

田沼北土地区画整理事業地内で発掘調査が進められている

傾城塚遺跡では、約1400年前の古墳時代後期の住居跡や、約400~700年前の鎌倉から戦国時代にかけての遺構群が確認されており、田沼地区では最大級の複合遺跡であることが判明しています。

この日は、22軒が確認されている古墳時代の竪穴住居跡での発掘体験会に、小学生から大人まで約20人が参加し、係員の指導を受けながら掘り進め、土器の破片などを発見していました。

また、見学会にも多くの人を訪れ、興味深く見入っていました。

佐野のライブハウス



コンサートの様子

市役所西の、以前生花店だった建物2階に「ぎゃらりー小櫓」という多目的展示会場があります。主な利用は、中心市街地を活性化させようと集まった有志で「なんなの茶ロン」を結成し、月に1度コンサートなどを開催しています。これまでに落語、映画上映、尺八、クラシックとジャンルは問わず23回の開催を数えます。見に来てくださる方々もさることながら“佐野のライブハウス”を目指すと意気込む主催者の皆さんが一番楽しんでいるようです。会場は40人程度が座れる空間で、陶芸家の個展や絵手紙などサークルの利用もあります。

オーナーの寺岡さんご夫妻は「オープンして2年になりますが、身近にこんなに沢山音楽を楽しんでいる人達がいるのかと驚き、演奏家と聞き手の皆さんに場が提供できることを嬉しく思っています」と話してくださいました。皆さんも一度覗いてみませんか？

(市民記者 永倉文子)

田沼名物「初午祭」

3月2日・3日・4日と毎年恒例の初午祭が、田沼町の一瓶塚稲荷神社で行われました。

今年は、暖かい日が続



多くの人でにぎわった初午祭

会並みに大混雑でした。主催者側によると15万人もの人出だったとのこと。お稲荷さんにお参りした後は、さまざまな出店を物色し、植木やお花を下げた帰る人をたくさん見かけました。地域の名産品を集めた物産展も開かれ、日頃より安価で行列のできている店もありました。初午といえば、しんこまんじゅうが有名ですが、こちらは1月ごろから4月ごろまで各店で販売しているそうです。

伝統ある田沼名物の初午祭、いつまでも続いて欲しいものだと感じました。

(市民記者 青木とし子)

佐野弁 ばんざい

蝶々はむかしから 親しまれてきた

野に山に色とりどりの花が咲く4月になると、もんしろちょうやあげはちょうなどが花から花へ飛び交うようすが見られます。身の回りには、小さくて愛らしい蝶々に、むかしの人は大人も子どもも親しみをおぼえ、各地でそれにふさわしい方言をつくって呼んでいました。佐野地域や田沼地域の新合・飛駒では、蝶々に「ベ」（接尾語）を添えてチョチョベと呼んでいました。蝶々に「ベ」や「マ」を添えて呼んだほうが何となく親しみを感じたからです。

葛生地域や田沼地域の三好・野上では「マ」を添えてチョチョマと呼んでいました。50歳代以上の人なら、「確かに年寄りがそう言ったよ」と思い出すでしょうし、70歳以上の高齢者なら「今でも使っているよ」という人、「かつて使っていたよ」という人が多いのではないかと思います。

飛駒には、蝶々に「ベ」と「コ」の2つの接尾語を添えて、チョチョベッコと呼んでいました。「コ」は後になってから付けました。むかしはかわいく小さく親しみを感じる動物には「メ」を付けました。メはなまってべに変化したり、マに変化したりしました。また動物や植物や物には、根っこ・隅っこ・掘っこ・石っこのように「コ」を付けて呼ぶこともありました。かつて佐野住民は蝶々を愛し親しみをもって接していたことがわかります。

（市民記者 森下喜一）

※今月号から「佐野弁ばんざい」を掲載します



葛生南こどもクラブで
記念撮影



新しくなった
中央こどもクラブ



中央こどもクラブの
児童が歌を披露

郷土博物館入館者が 50万人を突破



50万人目となった
鶴木さんご夫妻

3月10日、郷土博物館の入館者が、昭和58年11月の開館以来、50万人を突破しました。

50万人目の入館者となったのは、千葉市から訪れたの鶴木厚子さん。郷土博物館から天明鑄物のペン立て、博物館図録などの記念品が贈られました。

鶴木さんは、千葉県の佐倉日蘭協会の仲間

約40人と、佐倉藩士で佐野藩に出向した西村茂樹の資料などを見学に訪れたそうです。鶴木さんは、感想を聞かれて「こういうことは初めてなので驚きました。オランダに留学している娘に早速知らせあげたいです」と驚いた様子で話していました。